

2023年度 事業計画

社会福祉法人 札幌この実会

2023年度 事業計画概要

社会福祉法人 札幌この実会

新型コロナの感染症法の位置付けが賛否あるなかゴールデンウィーク明けに5類へと引き下げられますが、引き続き新たな対策の情報を得ながら感染予防を徹底しつつも利用者の皆さんの暮らしが少しでも充実したものになるよう支援の活発化に取り組んでいきます。

また、「みらい会議」の議論を進め、将来展望とその具体策に取り組んでいきます。「取り組みの5つの柱」の全体像に示す「短期」のものから今年度の取り組みを設定するとともに、基本課題「職員を巻き込みながら」に有効な手立てを提案しながら進めていきます。「チャレンジ企画」のように「みらい会議」発の手法を提案し、試行錯誤しながらも結果に結び付けていきたい。

不足する人材の確保については、各学校訪問や北海道福祉人材センターの福祉職場説明会等に参加をして、求職者や関係者と直接対面での接する機会を増やし、その中でSNS（LINE公式アカウント）を使用した情報発信を行い、求職者が気軽に応募や問合せ等ができる環境整備を進めていき、求人媒体と絡めて、確保に取り組んでいきます。

1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機 関	主な議案等
6月	理事会	2022年度事業報告及び決算の承認
		【任期満了に伴う改選】役員候補者の推薦
		定時評議員会の招集
6月	定時評議員会	2022年度事業報告 2022年度決算の承認
		【任期満了に伴う改選】理事及び監事の選任
	理事会	理事長の選定
9月	理事会	
12月	理事会	2023年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2023年度補正予算の承認
3月	理事会	2024年度事業計画及び収支予算の同意
		評議員会の招集
	評議員会	2024年度事業計画及び収支予算の承認

2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

3. 事業運営について

2023年度の運営事業は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約10,300人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数見込)約900人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

【基本方針】 制度に則った適正な業務運営の保持。提供するサービスの質の向上。

・障害者総合支援法等で規定されているサービス提供のプロセスに則った事業所運営を継続していくとともに、適正な支援のプロセスを通じて事業所のサービスの質を高めていきます。

【重点目標】 支援現場における個々の職員による創意工夫の発揮。

・日々の支援の現場のなかで、個々の職員の「こうしてみたらどうだろうか」、「こんなことを〇〇さんとやってみたい」というような前向きな気づきやチャレンジ精神を実際の支援のあり方に取り込んでいけるような仕組みを作っていきます。

【個別支援計画の運用方針】

①「利用者への共感的理解」を前提とした支援のあり方を職員に共有してもらいます。

②支援会議などの支援方針の決定プロセスを重視して、その質の向上を図ります。

・サービス管理責任者は、定期の個別支援会議以外に、利用者に関して個別に検討が必要となる事案があれば、随時ケース会議を開催して対応について検討していきます。

【生活介護事業所すてっぷ 日中活動の概要】 定員:40名

①はた・らく (30名)

～多様な活動(生産活動、創作活動、レクリエーション、課外活動)の提供を通じて、利用者の生活リズムの確立や健康維持、情緒の安定や楽しみづくりを図っていきます。

②盤溪・森林農場（10名）

～盤溪の自然豊かな環境の下で、環境整備の作業やウォーキング活動を通じて利用者が伸び伸びと身体を動かしながら、心身の状態を良好に維持できるよう支援していきます。

【保護者との連携】

～定期的に保護者会と個別懇談を実施して、直接事業所の方針や個別支援計画などについて説明するとともに、保護者からの聴き取りをする機会を確保していきます。

【短期入所事業所らつく】

～単独型短期入所棟として、主に通所利用者の生活訓練や、家族の休息等を目的として宿泊の受け入れをしています。

この実支援センター

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

（定員）40人 （年間利用者延べ人数見込）約9,500人

（体制）福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

生活介護事業所「おりーぶ」では、高齢化が進む中、作業や余暇等の活動を通して体力の維持や健康の増進につながるサービスを提供していきます。

生産活動にも力を入れる一方で、たのしみながら体を動かせるレクリエーションを立案し健康維持に力を入れていきます。

サテライト2・6での従たる事業所では、新たな下請け作業を行うようになり、活動を通して、自分が働いている意欲、社会との関わりを高める支援をしています。また、自立課題や創作活動にも力を入れ新しいものを取り入れていきます。

入浴支援では個々の状況をアセスメントしていき、アセスメント状況を見てひとりで洗髪や洗体など、出来ることがひとつでも増えるよう支援していきます。

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

（定員）15人 （年間利用者延べ人数見込）約3,400人

（体制等）福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

就労継続支援B型「うえるなつつ」では、施設外就労、ブックオフに関しては4名の利用者に交代で参加していただき、実際に売り場でお客様の反応を感じることができる

作業に取り組める機会を提供していきます。また、日本仮設では昨年度は1名、契約社員として雇用していただくことができました。毎月の振り返りを中心に、同じ工場内で作業をしているという利点を十分に生かしながらか長く定着できるよう支援します。

作業以外での余暇活動も必要不可欠だと考えます。そのため、これまでの年2回のドライブ、季節の行事は継続しつつ、月2回のお弁当買いは廃止としその代わり外食の機会を月1回設けます。

今年度についても現状の作業を継続し色々な利用者にたくさんの作業に挑戦していただきたいと考えております。そのなかで、利用者一人ひとりがエンパワメントを発揮し自分らしい生活や暮らしを実現できるよう職員が一丸となって支援し、たくさんの職種を十分に生かし、色々な経験をとおして利用者が作業に意欲的に取り組めるよう環境を整えます。豊かな支援を提供するために、職員間の連携を密にし提案しやすい環境、関係づくりを心がけ豊かなチームワークで取りんでいきます。

コミュニティライフこの実

この実会の理念である

『誰もが地域社会の中で自立した人間(ひと)として暮らすこと』

『一人一人が大切にされ、その長い生涯が支えられること』

を具現化するためにどのような支援が必要か、またどのような体制を組み立てるのかを常に検討しながら、安心安全で楽しく人らしい生活をつくれます。

「新型コロナウイルス感染症」については、感染法上の位置づけを5月8日に現在の2類相当から5類に見直すことになりました。引続き、感染対策は行いながらも、これまで我慢していた外出や旅行など利用者の皆さんの楽しみの活動を順次再開していきます。

以前から課題であった高齢化について、介護度の高まりや支援の質の変化が顕著になってきており、本人のニーズに合わせた暮らしの場を提供する為、各ホームでの役割を明確にして、ライフステージに合った支援を提供できるよう全体を見直します。

職員の確保が難しい中、課題を整理して継続可能な支援を構築する為の準備を行います。

■ 共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)49人 (共同生活住居)9ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約17,700人

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援等体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

今年度は、就労している方から、高齢の方、強度行動障害などがあり手厚い支援が必要な方といった様々なニーズに応えるため、課題を整理して住む場所や職員の体制なども見直し、新しい体制を組み立て、利用者ひとりひとりに寄り添った支援を行います。

今までの日常を取り戻すべく、ガイドヘルパー等外部の社会資源なども活用しながら利用者の生活がより豊かになるよう支援します。

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約6,700人

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制
重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数見込)100人

(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

区分の高い利用者や高齢者が多く、「安心・安全」に暮らし、活動していくためにも職員間での情報の共有や認識の統一が重要でありそのために聞き取りや報告などをよりこまめに行っていきます。希望を伝えることが難しい方にも丁寧に対応し、できるだけ本人は楽しめるよう余暇活動等を充実させます。

利用者の健康状態や加齢に伴う変化に対し速やかに適切な対応をとれるような体制をつくります。また訪問リハビリなども活用し身体機能の維持を図ります。

日中を過ごす利用者にも、リハビリや体力維持といった個別のプログラムを用意して行きます。

相談室みすくうえる

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

(契約者数)78人 (更新見込)46人 (モニタリング見込)138人

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

平成29年1月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合

相談「みすく・うえる」を開設しました。その後、平成31年4月に指定特定相談支援事業所(特定相談支援事業・一般相談支援事業)を開設し、5年目を迎えます。

現在の契約件数は77名(札幌この実会利用者32名 藻岩この実会41名 他4名)となっています。サービス等利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを行っています。現在、他の相談室を利用している自法人のグループホームのケース1名と、他の法人から自法人のグループホームを利用するケース1名の受け入れを予定しています。

引き続き、藻岩この実会のほっと相談センターとは出来る限り、協力体制をとっていきたいと考えています。

コロナウイルスの状況も落ち着いてきているので、事業所や関係機関への訪問を行い、常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたいと考えています。

4. 地域における公益的な取り組みについて

2023年度はコロナの感染状況を鑑みながらも地域のなかで互いに助け合える関係づくりを活発化させたい。次の取り組みのほか、みらい会議(Ⅳ)「外部に開かれた運営を目指す」チームの課題の一つとしても検討を行います。

■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いをを行います。

■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

■清掃活動

公園清掃、並びに地域やバス停のゴミ拾いをを行います。

2023年度 当初予算について

2023年度当初予算の概要は次のとおりです。()…対2022年度第一次補正予算

《事業所合計》 ※法人本部を除く

事業活動収入 約 487 百万円弱 (約 14 百万円弱増 ◯) …別紙参照

人件費関係の支出 約 345 百万円強 (約 4 百万円弱増 ◯)

○人件費率 約 71%

○人件費積立資産積立 約 1 百万円

経常的なその他の支出 約 140 百万円弱 (約 5 百万円弱増 ◯)

《法人合計》

特別な支出に対する積立資産での対応 1 百万円

○ソフトウェア(SimWork 総合支援) 1 百万円 (本部)

(法人計)	支払資金残高 約 176 百万円強
	積立資産残高 約 217 百万円弱

※積立資産の収支 (退職給付引当資産を除く)						(単位:千円)
		本部	この実サポート ステーション	この実 支援センター	コミュニティ ライフこの実	合計
取崩(A)	積立資産取崩収入	1,000	0	0	0	1,000
積立(B)	積立資産支出	10,109	0	0	0	10,109
(B)-(A)		9,109	0	0	0	9,109

2023年度の事業活動収入について

事業活動収入計	この実サポートステーション	この実支援センター	コミュニティライフこの実	相談室みすくうえる	合 計
2022年度	106,538,000	114,651,400	249,709,490	2,445,030	473,343,920
2023年度	111,022,000	115,817,000	257,907,000	2,438,000	487,184,000
差 異	4,484,000	1,165,600	8,197,510	▲ 7,030	13,840,080
主な要因 (+)…プラス要因 (-)…マイナス要因	■すてっぷ(生活介護) 自立支援給付費収入…プラス約550万円 (+)利用者延人数増 ・新規受入 ・コロナ減の回復を見込む (+)支援区分の変更 (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約50万円 (-)臨時特例交付金 ■りらく(短期入所) 自立支援給付費収入…マイナス約50万円 (-)利用者延人数減 (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約10万円 (-)臨時特例交付金	■おりーぶ(生活介護) 自立支援給付費収入…マイナス約80万円 (+)利用者延人数増 ・コロナ減の回復を見込む (+)支援区分の変更 (-)常勤看護職員等配置加算(Ⅰ) ⇒非該当に (-)重度障害者支援加算 ・支援減(職員の条件) ・開始180日⇒該当なし (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約50万円 (-)臨時特例交付金 ■うえるなつつ(就労継続B型) 就労支援事業収入…マイナス約70万円 自立支援給付費収入…プラス約310万円 (+)利用者延人数増 (+)就労移行支援体制加算 ⇒該当に (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約10万円 (-)臨時特例交付金	■らいふネット(共同生活援助) 自立支援給付費収入、補足給付費収入、 特定費用収入 合計…プラス約880万円 (+)利用者延人数増 ・新規受入 (+)支援区分の変更 (+)重度障害者支援加算(Ⅱ)・延人数増 (+)医療連携体制加算・対象者増 (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約140万円 (-)臨時特例交付金 ■みなぼっけ(共同生活援助+短期入所) 自立支援給付費収入…プラス約130万円 (+)利用者延人数増(短期入所) (-)重度障害者支援加算(Ⅰ)・延人数減 (+)重度障害者支援加算(Ⅱ)・延人数増 (+)ベースアップ等加算 その他の事業収入…マイナス約90万円 (-)臨時特例交付金	■相談室みすくうえる(計画相談支援) 自立支援給付費収入…マイナス約7千円	

注) 2022年度…12月・第一次補正予算 2023年度…当初予算